

変わるか! 地方議会

79



「闘う議長座談会」には4人の議長が出席。住民代表としての議員や議長のリーダーシップのあり方などをめぐって活発な議論が行われた(10月27日、早稲田大学で)。

「闘う議長」がリードし、 議会改革のさらなる推進を

全国知事会は梶原拓・前会長時代、「闘う知事会」を標榜していたが、いまや威勢のよい掛け声は影をひそめる。一方、徐々に存在がクローズアップされてきたのが議長だ。10月末にはそのものズバリの「闘う議長座談会」が都内で開催された。二元代表制の一翼を担う議長・議会の今後のあり方をシンポジウムなどから探ってみた。

承認機関から 立法機関へ

「単なる承認機関としての議会なら要らない、というのが一般的な市民の評価。地方分権改革推進委員会では地方公共団体から地方政府になることを打ち出している。そのためには議会が立法機関として機能を発揮しなければならぬ」

10月27日、早稲田大学で「闘う議長座談会」と題したシンポジウムが開かれた。主催した早大マニフェスト研究所の北川正恭所長(前三重県知事)は基調講演の中で、このように議会の役割を強調。議会による内発的改革を求めるとともに「執行部よりも議会が変わるほうがはるかに影響力が大い」とさらなる奮起を呼びかけた。

シンポジウムには、松田良昭氏(神奈川県)、上澤義二氏(長野県飯田市)、橋場利勝氏(北海道栗山町)、溝部幸基氏(北海道福島町)の4議長がパネラーとして登場した。

松田氏は今年5月の議長選で議長マニフェストを掲げて議長に当選。開かれた議会づくりや議会基本条例の検討、議政局の強化などを進めており、「知事とは抑制・均衡の関係が大事。議会改革によって、県民満ちた足度日本一の県議会をめざす」と話した。

飯田市議会は06年9月、議員提案による自治基本条例を制定。議会に市民会議を設置、2回にわたって市内20地区で説明会を行うなど3年半もの歳月をかけて条例を作り上げた。上澤議長は、「市民のために」を合い言葉に議会主導で取り組んできたことを説明。市民主体のまちづくりを進めるには「まず、議員自らが変わる」必要性を指摘した。

町民の 「当たり前」の感覚を重視

栗山町は06年5月、全国初の議会基本条例を制定したことで知られる。条例は全国的な注目を集め、今年10月末現在の視察数は194団体約1700人にも及ぶ。00年の議長就任後、議会改革を牽引してきた橋場議長は「基本条例の特徴は4年半に及ぶ議会の実践を盛り込んだこと

